

1 小単元名 「明治の国づくりを進めた人々」

2 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、学習指導要領では、第6学年の内容に示された

- (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
- キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかること。

に基づいて設定されたものである。キ「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかること。」の学習を通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが現在の我が国の発展につながっていることがわかるようにする。

(2) 教材について

本小単元は、幕末から明治の初めにかけてのうち、黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかるようにするとともに、近代化を進めるにあたっては、主に政府・士族の立場の人々の願いや思いが関わっていることがわかるようにすることをねらいとしている。

そして、本小単元は人々の立場と「近代化」に対するそれぞれの主張が、政府・士族と明確に分かれている単元であり、それぞれの立場の人々の思いや願いを考えやすい単元である。そこで、本小単元では、西南戦争に至るまでを資料を基に事実を調べることで、政府と士族のそれぞれの「近代化」に対する思いや願いを考えていく。また、平民についても「近代化」に対する考え方を資料から読み取ることで、この時代に起こった日本の「近代化」を多面的にとらえられるようにしたい。

また、児童はどうしても歴史学習の中で中心に学習することの多い政府の立場に賛成しがちであり、一方の立場からしか物事を考えないことが多い。これまでの学習においても国づくりを行ってきたのは幕府や政府であり、それらが行ったことが現在につながっていることから、幕府や政府が正しいと思いがちになってしまうからである。

本小単元では、幕末から明治の初期にかけて起こった出来事や新政府の行った諸改革について、士族に与えた影響を調べながら、「近代化」に対してはそれぞれの立場からの思いや願いがあったことを知ることで、「近代化」が様々な不平や不満があった中でも必要なことであり、政府によって推し進められていったことに気付くことができるようにしていきたい。

(3) 小単元で育てたい力

指導にあたっては、明治時代の日本の近代化を政府・士族の立場から調べ、それぞれの立場の人々の思いを読み取り、交流することによってこの時代の政府・士族の行動の裏にある考えや思いを理解させたい。そして、それらの学習を進めていく中で、明治時代の新政府が行った諸改革には賛否両論があり、それぞれの立場の人々が自分たちの思いや願いをかなえたいという思いから国の仕組みが整うことで、欧米の文化を取り入れつつ、日本の近代化が進んでいったことを理解させたい。

3 児童の実態 (男子18名 女子11名 計29名)

① 社会科の学習は好きですか。

とても好き	6	・新しいことを知ることが楽しい。(6)
好き	11	・学習内容の種類が多様だから。(3) ・覚えることが楽しいから。(2) ・歴史について詳しく知ることができるから。 ・今、どのような事が国に起きているかわかるから。 ・これからの生活にいかせるから。 ・身の回りのことだから。 ・歴史が好きだから。
あまり好きではない	6	・覚えるのが苦手。(4) ・内容がよくわからない。(2)
好きではない	3	・資料の読み取りが難しい。 ・情報がたくさんあってわからなくなるから。 ・勉強している時間が長く感じる。

② 歴史の学習は好きですか。

とても好き	9	・知らなかった昔のことがわかるのが楽しいから。(5)
好き	6	・物語のようで面白いから。(2) ・調べるのが好きだから。(2) ・昔のことと今のつながりを考えることが楽しいから。(2) ・歴史があるから今があるから。(2) ・戦争や戦いに興味があるから。 ・兄弟も好きだから影響を受けた。
あまり好きではない	7	・覚えるのが苦手。(7) ・過去のことをふり返っても面白くないから。(2)
好きではない	4	・資料の読み取りが難しい。 ・内容がわからない。

③ 歴史は身近なものだと思いますか。

思う	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人がつくったものが身近なところに残っているから。(6)</li> <li>・今起きていることに昔のことが関係しているから。(5)</li> <li>・日々の積み重ねこそが歴史だと思うから。(3)</li> <li>・今まで伝わっている文化があるから。(3)</li> <li>・自分の先祖が歴史の中にいるはずだから。</li> <li>・昔の教訓が今にきているから。</li> </ul>
思わない	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔と今はあまりつながっていないと感じるから。(3)</li> <li>・新しい物しか身近にはないと感じる。(2)</li> <li>・昔は昔、今は今だから。</li> <li>・昔のことはいづれなくなっていくから重要ではない。</li> </ul>

④ 明治時代と聞いて思い浮かぶ言葉は何ですか。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・製菓会社の明治 (6)</li> <li>・廃藩置県 (4)</li> <li>・西南戦争 (2)</li> <li>・明治維新 (2)</li> <li>・高度経済成長</li> <li>・地租改正</li> <li>・大隈重信</li> <li>・洋服</li> <li>・長州藩</li> <li>・五箇条のご誓文</li> <li>・岩倉具視</li> <li>・坂本竜馬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない (6)</li> <li>・明治天皇 (3)</li> <li>・版籍奉還 (2)</li> <li>・樋口一葉 (2)</li> <li>・四民平等</li> <li>・辰野金吾</li> <li>・山形有朋</li> <li>・煉瓦</li> <li>・遼東半島</li> <li>・日本国憲法</li> <li>・ポーツマス条約</li> <li>・江戸城明け渡し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野口英世 (4)</li> <li>・日露戦争 (3)</li> <li>・日清戦争 (3)</li> <li>・伊藤博文 (2)</li> <li>・明治時代</li> <li>・西郷隆盛</li> <li>・ざんぎり頭</li> <li>・韓国併合</li> <li>・征韓論</li> <li>・三国干渉</li> <li>・遣欧使節団</li> <li>・徳川慶喜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福澤諭吉 (4)</li> <li>・文明開化 (3)</li> <li>・薩長同盟 (2)</li> <li>・明智光秀</li> <li>・ペリー来航</li> <li>・井上馨</li> <li>・鳥羽伏見の戦い</li> <li>・大政奉還</li> <li>・下関条約</li> <li>・五榜の掲示</li> <li>・牛肉</li> </ul>
---	--	---	---

⑤ みなさんが生活している世の中は、今までのどんな人々の思いや願いが影響していると思いますか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない (8)</li> <li>・戦争にあった人</li> <li>・今まで天下統一した人々</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人々 (4)</li> <li>・豊臣秀吉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の人物 (2)</li> <li>・今、生きている人の先祖</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇</li> <li>・雪舟</li> </ul>
--	--	---	--

⑥ 奈良時代、聖武天皇が大仏をつくることに対して、民衆はどう思っていたでしょうか。また、政治を行っている人々はどう思っていたでしょうか。(自由記述)

<p>〈民衆〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・莫大な資金がかかるから反対だと思う。(5)</li> <li>・迷惑と思う人もいれば賛成の人もいた。(4)</li> <li>・大仏を神様のように思っているから賛成。(2)</li> <li>・不安な気持ちとうれしい気持ちが混ざった感じ(2)</li> <li>・強制だから仕方がない。(2)</li> <li>・反対したと思う。(2)</li> <li>・これで世の中がよくなるかと半信半疑。</li> <li>・自分たちが働かされるので反対。</li> <li>・大仏をつくる意味が分からない。</li> </ul>	<p>〈政治〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成する人も反対する人もいた。(4)</li> <li>・大仏を造って人々の心を鎮めたい。(3)</li> <li>・天皇と同じ考え方だったので賛成。(2)</li> <li>・何も思っていなかった。</li> </ul>
<p>・わからない。(4) ・人によって考え方が違うのでわからない。</p>	

〈考察〉

本学級の児童は、社会科学習において資料を活用して調べたり、友達と意見交換を行ったりして考えを深めていくことに意欲をもってとりくむことができている。また、当時の人々の思いを想像することはできているが、根拠が漠然としていることが多く、人々の思いが交錯し影響し合っていることを意識できている児童は少ない。そして、同じ時代の歴史上の人物や人々の思いが関わり合い、影響し合っていることを意識できている児童は少ない。

また、①から、本学級の児童は社会科の学習が好きだと思っている児童が17名と過半数を超えている一方、好きでないと答えている児童も9名おり、6年生になって始まった歴史の学習で、覚えることが増えたことから社会科に苦手意識をもっている児童が多いこともわかる。また、②を見ても、歴史の学習を覚えるのが苦手であるからという理由で好きではないと感じている児童が多い。そして、①と②から社会科の学習を好きだと感じている児童と好きではないと感じている児童の意識の差ははっきりと出ていることがわかる。③からは、総合的な学習の時間で歴史的な建造物や、文化を調べていることもあり、身近に昔から受け継がれているものがあることを知っていることから、歴史を身近に感じている児童が多いこともわかる。しかし、歴史と現在のつながりを感じておらず、歴史を身近に感じていない児童がいることもわかる。

④からは、児童の明治時代についての単語が、学級に数名いる特定の児童からほとんど出てきており、ほとんどの児童は明治時代についてあまり知らないことがわかる。また、塾等ですでに学習している児童は明治時代に起こったことや人物を知っており、知らない児童は全く分からないという児童間の知識量に学習前から差があることが見て取れる。そして、⑤では「わからない」と答えた児童が一番多く、過去に起こっている出来事が、現在にも影響を及ぼしていることを意識している児童が少ないことがわかる。また、「昔の人々」や「歴史上の人物」と答えた児童らは、一方の視点からしか物事を見ておらず、幕府や武士、平民の人々の思いが関わり合って影響しているといった考えをもっている児童は見取れなかった。

最後に⑥では、聖武天皇の大仏を造るという決定に対して民衆と政府それぞれの立場から思いを想像できていることが分かったが、民衆は民衆の考え、政府は政府の考えとしてとらえており、それぞ

れの立場や考えを関連させていないことがわかる。

以上のことから、まず本学級の児童は歴史の学習が好きな児童とそうでない児童に分かれてしまっていることがわかる。また、歴史上の出来事について偏った立場からしかとらえることができおらず、多面的な見方の素地を養っていく必要があると考える。そこで、本小単元の導入において、明らかに様子が異なっている江戸時代と明治時代の街並みやくらしの様子を比較することで、なぜこのような大きな変化があったのか、理由を解明することに興味をもつことができると考える。そうすることで、歴史の学習に消極的な児童も主体的に学習に参加できるようにしたい。そして、本小単元の西南戦争から、明治政府の諸改革に対する士族の不満があったことや、政府には不満があることをわかっていながらも諸改革を推し進めていきたい理由があったことを考えることで、多面的に社会的事象をとらえることで、この時代に起きた出来事に対する理解を深めたい。

4 知識の構造図

中心概念

江戸幕府を倒し、廃藩置県、殖産興業、富国強兵、地租改正などの諸改革を行った明治政府は、欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めていった。政府の改革に不満を持つ士族や平民の思いから自由民権運動は起こり、国会開設、大日本帝国憲法の制定をもたらした。



## 5 小単元の目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治新政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働きを考えようとする。
- 江戸と明治の日本橋や学校の様子の変化などから学習の問題を見だし、資料を活用して調べたことをまとめるとともに、明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや、近代化を進めるためにさまざまな諸改革を行った代表的な人物の働きの意味について思考・判断したことを適切に表現する。

## 6 観点別評価基準

評価の観点	評価規準
社会的な事象への 関心・意欲・態度	○黒船の来航から大日本帝国憲法発布までに関わった人々の働きについて関心をもち、進んで調べ、それらの人々の思いや願いについて考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○黒船の来航から大日本帝国憲法発布までに関わった人々の働きについて、自ら学習問題、予想、学習計画を考え表現するとともに、日本の近代化を進めるためにさまざまな諸改革を行った代表的な人物の願いや働きについて、思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の 技能	○明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや、我が国を近代化するためにさまざまな諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産について、必要な情報を集め、読み取ったことを年表やノートなどにまとめている。
社会的な事象について の知識・理解	○日本が欧米の文化を取り入れながら、さまざまな諸改革を行うことで近代化を進めたことを理解している。

## 7 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時配	児童の主な学習活動
つかむ	1	○江戸時代の日本橋の様子と明治時代の日本橋の様子を比べてみて、わかることや考えたことを話し合う。
	2	○明治維新を資料から理解し、明治維新を行った人々に関心をもちながら、調べたいことを学習問題としてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題</p> <p>明治維新によって、国の仕組みや社会が変わっていく中で、どのような人々が、どのような思いや願いをもっていたのでしょうか。</p> </div> ○学習問題に対する予想を立てる。

調べる	3	○黒船来航と条約締結による国内の混乱の中、より強い国づくりの必要性を感じた若い武士たちによる討幕の様子について調べる。
	4	○欧米に学んだ大久保利通らが、欧米に負けない国をつくるために、廃藩置県・殖産興業・徴兵令・地租改正を行い、中央集権の国づくりを進めたことについて調べる。
	5	○明治新政府の改革によって、士族がそれまでもらっていた俸禄が廃止されたことや、徴兵令によって仕事を失っていき、西南戦争に至ったことを調べる。
	6 本時	○これまでの学習で調べたことから、士族や政府がどのような思いをもって西南戦争に至ったのかを話し合う。
	7	○西南戦争から、自由民権運動に士族の行動が変化していく様子を調べる。
	8	○各地でつくられた憲法案や伊藤博文がつくった憲法案について調べ、大日本帝国憲法の特徴について調べる。
まとめる	9	○単元のまとめとして、学習をふり返って、各時間のまとめを整理し、立場関係図をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>黒船来航や欧米に学んだ人々は、中央集権の強い国をつくろうという思いをもっていた。士族は、中央集権によって社会に起きた様々な問題を解決するために政治に参加しようという結論に至った。</p> </div>

#### 8 市教研社会科研究主題のための方策

<p>研究主題：変貌する未来を切り拓く社会科学学習</p> <p>～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～</p>
---

<p>《本年度の主題解明のための方策》</p> <p>① 「深い学び」の基礎となる学習内容の工夫</p> <p>② 社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫</p> <p>③ 児童や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫</p>
---

本単元では上記の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

#### ②社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

○単元を通して多面的な見方をもてるよう、異なる立場からの考えにふれる。

児童が「深い学び」を行っていくためには、一方の立場から考えるのではなく、様々な立場からの考えを知ったうえでの結論を考えることが必要であると考え。本時では、欧米に学び、中央集権の強い国づくりを行っていった政府の人々。政府による改革によって特権を失い、政府に不満をもった士族の人々の立場からの考えを話し合い、カードにまとめる。そうすることで、政府による中央集権の強い国づくりをしたいという思いと、士族の、明治新政府の政策では自分たちの仕事は失われ、生活していくことが困難になってしまうという危機感から西南戦争が起こったことを知ることができる。また、様々な立場からの考えを考慮するだけでなく、その背景にある人々の思いを事実と結果だけで判断することなく考えることで、明治時代の日本の近代化を多面的にとらえることができる。そしてそれらが「深い学び」につながると考える。



④ 児童や授業者が「手応えの発見」につながったかを見取る評価方法の工夫

○それぞれの立場の人の考えをカードにまとめ、それを使って立場関係図をつくる。

児童が「深い学び」を実感するためには、児童が学んだことを記録にまとめ、視覚的にとらえられるようにすることが必要ではないかと考える。そこで、今回の単元では立場に注目して、その立場と考えをカードにまとめていく。そして、それぞれの児童がまとめたカードを使って最終的に立場関係図を作る。そうすることによって、児童が本単元で学んだことをふり返ることができると考える。また、カードに書かれた立場と考えや、立場関係図へのまとめ方を見取ることによって、それぞれの児童が話し合いを通して、世の中に大きな変化が起こった明治時代を、政府と士族のそれぞれの立場から多面的にとらえることができたかをより明確に見取ることができるのではないかと考える。

9 本時の指導（6/9）

(1) 本時の目標

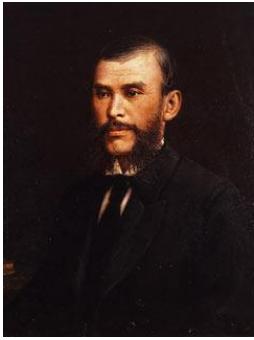
○政府に不満をもつ人々と政府それぞれの思いや働きを関連付け、西南戦争が起きた原因について考える。  
(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	<p>1 前時までの学習をふり返り、本時の課題を確認するとともに、前時までに決めておいた立場を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は欧米に負けない国づくりをするために中央集権を進めようとした。</li> <li>・士族は、四民平等の政策や徴兵令によって特権が奪われた。</li> <li>・明治新政府の諸改革によって、西南戦争が起こった。</li> <li>・稲毛第二小は児童数が約550人</li> <li>・西郷の軍は4万人 (稲毛二小 約73校分の人数)</li> <li>・政府の軍は6万人 (稲毛二小 約109校分の人数)</li> </ul>	<p>○前時までのペリー来航から明治新政府の改革までの流れを想起できるよう、今までの資料を活用しながら、学習をふり返るように促す。</p> <p>○新政府による諸改革によって、政府・士族に起こった状況の変化と置かれている立場を考えながら、本時の学習に臨むよう助言する。</p> <p>○資料の具体的な数値から、西南戦争がとても規模の大きい戦いであったことをとらえられるよう確認する。</p> <p>○双方の兵力や被害を、稲毛第二小の児童数と比較することで、西南戦争の規模の大きさを実感できるように示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペリーの上陸の絵</li> <li>・明治新政府の改革をまとめた表</li> <li>・江戸時代と明治時代の士族の待遇を比較できる図</li> <li>・西南戦争の絵図</li> <li>・西南戦争のデータをまとめた表</li> </ul>
<p>なぜ、明治新政府の諸改革によって西南戦争が起こったのか、大久保たちの思いと西郷たちの思いを考えながら明らかにしよう。</p>			

5	<p>2 話し合いの進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【話し合いの進め方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場は政府と士族どちらに賛成か明らかにする。</li> <li>・必ず、今まで学習してきた資料の内容から理由を考えて立場を決める。</li> <li>・相手の話を聞いて自分の考えが変わったら、立場を変えてよい。</li> </ul> </div>	<p>○今までの資料を掲示して、既習の資料を根拠にして話し合いを進められるよう助言する。</p> <p>○児童が確認しながら話し合いを進められるように、話し合いの進め方を掲示する。</p>	
1 5	<p>3 グループで、なぜ明治新政府の諸改革によって西南戦争が起こったのか、それぞれの立場からの考えをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府の中央集権の国づくりをしたという思いと、士族の不満がぶつかったのではないか。</li> <li>・政府の政策があまりにも士族に対して厳しすぎるからではないか。</li> <li>・士族が特権を維持しようとしているのはわがままであり、政府がそれに反発したのではないか。</li> </ul>	<p>○児童が話し合いを通じて、自分の考えが変わったり、変わらなかったりしたことを、根拠を明確にしてワークシートに書くようにすることで、自分の考えを明確にできるよう助言する。</p> <p>○それぞれの立場からの意見にふれることができるように、政府の考えに賛成している児童と士族の考えに賛成している児童を同じ3～4人グループの中に入れる。</p>	
1 0	<p>4 グループで話し合ったことを全体で共有し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話聞いて政府の思いも士族の思いもどちらも間違っているとは言えなくなってしまった。</li> <li>・どちらかという弱い立場にあった士族がかわいそうに思えたから士族にも賛成できた。</li> </ul>	<p>○黒板にスケールを掲示し、児童が自分の考えが話し合いの中でどう変わったり、変わらなかったりしたかをスケールの中で動かすことで、考えの変容を視覚的にとらえられるように示す。</p>	
5	<p>5 資料から、西南戦争の以前にも士族による反乱が起きていて、士族に不満があったことをとらえるとともに、政府もすべての反乱を鎮圧していることから、政府の改革に対する強い決意を読み取る。</p>	<p>○西南戦争に至るまでに各地で起こっていた士族による反乱を、起こった順に政府の対応とともにふれることで、西南戦争に至る流れを理解することができるように示す。</p>	<p>・西南戦争に至るまでに各地で起こっていた反乱を表している地図</p>

	<p>大久保利通は、士族からの反発により反乱が起こってもなお、外国に負けない強い国づくりが必要だと考えていた。西郷隆盛は、政府中心の改革に不満をもち、自分たちの将来に不安を感じていた。これら双方の思いが大きな衝突となって起こったのが西南戦争であった。</p>		
5	<p>6 政府の改革に不満をもっている人々と政府の、双方の立場を考えた上で、それぞれの立場の人の考えをカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は士族に不満をもたれてでも、中央集権の強い国づくりが必要と考えていた。</li> <li>・士族は政府の諸改革に対する不満を、武力で訴えようとしていた。</li> </ul>	<p>○西南戦争が起こったという事実だけをとらえるのではなく、それぞれの主張から西南戦争が起こったことをとらえられるよう助言する。</p> <p>◆政府に不満をもつ人々や政府の思いや働きに関連付けて、西南戦争の原因について表現している。</p> <p style="text-align: right;">〈思考・判断・表現〉</p>	



**大久保 利通**

<人物>

<立場>

<考え>

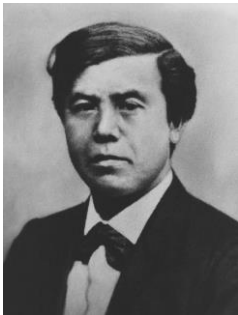


**西郷 隆盛**

<人物>

<立場>

<考え>



**木戸 孝允**

<人物>

<立場>

<考え>



**板垣 退助**

<人物>

<立場>

<考え>